

女性の就労と 自覚的な健康・睡眠・疲労

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)
名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学

近藤 康明 (Yasuaki KONDO)
国際セントラルクリニック

第80回日本衛生学会総会 (2010.5.10, 仙台)

健康調査結果

目的

女性の就労による健康影響を評価するため、
就労状況と自覚的健康・睡眠・疲労の関連を示す

対象者 2010.3月末現在

同意を得た 健診受診女性 **1863名** のうち、
現病・妊娠なし、今回の調査項目に欠損なし、
を充たした **1401名** (休職中 19名除く)

年齢: 22~58、平均(sd) = 39.9(4.9) 歳

無職 **253**、非正規雇用 **426**、正規雇用 **722** 名
平均週労働時間: 非正規 **27.9**、正規 **43.0** h/w

A. **自覚的健康** (4階級: 1~4)

就労	とても		あまり	
	良い	良い	良くない	良くない
無職	40	180	33	0
非正規	37	321	66	2
正規	64	519	138	1

$p < 0.001$ by Mantel-Haenszel χ^2

自覚的健康 と 週労働時間 との

age-adjusted Spearman's r

非正規 **0.083**, $p=0.087$

正規 **0.125**, $p < 0.001$

B-1. **一日睡眠時間** (h/d)

就労	一日睡眠時間 (h/d)					平均睡眠時間
	<5	5~5.9	6~6.9	7~7.9	8≤	
無職	9	40	102	78	24	6.41
非正規	16	105	171	105	29	6.14
正規	38	177	297	170	40	6.01

一日睡眠時間 と 週労働時間 との

age-adjusted Spearman's r

非正規 **-0.061**, $p=0.213$

正規 **-0.153**, $p < 0.001$

B-2. **よく眠れるか** (4階級: 1~4)

就労	大変良い	ほぼ良い	良くない	大変悪い
無職	101	114	37	1
非正規	179	190	55	2
正規	305	313	100	4

$p=0.659$ by Mantel-Haenszel χ^2

よく眠れるか と 週労働時間 との

age-adjusted Spearman's r

非正規 **0.102**, $p=0.035$

正規 **-0.028**, $p=0.441$

C. **疲れを感じるか** (4階級: 1~4)

就労	ほとんど		あまり	
	ない	ない	時々ある	よくある
無職	10	23	173	47
非正規	7	30	287	102
正規	7	46	479	190

$p=0.001$ by Mantel-Haenszel χ^2

疲れを感じるか と 週労働時間 との

age-adjusted Spearman's r

非正規 **0.033**, $p=0.450$

正規 **0.137**, $p < 0.001$

まとめ

無職者に比し、就労者、特に正規雇用者は自覚的健康度が低く、睡眠時間が短く、疲労感が強かった。さらに、正規雇用者は労働時間が長いほど、これら三項目すべてがより非健康的であった。

今後、対象者を増やし、客観的健康指標や家庭要因(配偶者・子の有無など)を加え、**女性の就労による健康影響を検討・評価する。**

この調査研究は

三菱財団 の 研究助成金、および
国際セントラルクリニック (名古屋市市中村区) の 多くの
受診者と職員 の 協力 で実施している。

また、この研究は「働くことと健康に関する調査研究」として継続中であり、経過は

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>

に開示している。